

公開シンポジウム

社会調査の オープンサイエンス化 へ向けての課題

日本学術会議社会学委員会社会統計調査アーカイブ分科会では、学術的研究や調査成果などにアクセスできるオープンサイエンス化について議論を行ってきました。本公開シンポジウムでは、オープンサイエンスを大きなテーマとして、日本および諸外国のデータアーカイブの現状と課題、ビッグデータの取得と利用、官庁統計、個人情報保護とデータ利用の法的整備について、本分科会の議論の成果を一般市民に向けて発信します。

開会のあいさつおよび趣旨説明

石井クンツ昌子（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授）

SSJ データアーカイブの展開と今後の課題

佐藤 香（東京大学社会科学研究所 社会調査・データアーカイブ研究センター教授）

ドイツとアメリカのデータ・アーカイブ——その歴史・現状・課題——

真鍋 一史（日本学術会議連携会員、統計数理研究所客員教授）

ビッグデータの取得と利用

鳥海 不二夫（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻准教授）

官庁統計の現状と課題

玉野 和志（日本学術会議連携会員、首都大学東京人文科学研究科社会行動専攻教授）

個人情報保護とデータ利用の法的整備について

穴戸 常寿（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

質疑応答（司会）・閉会のあいさつ

白波瀬 佐和子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

日時：令和元年 **10**月**19**日(土) 14:30~17:15

場所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス

(〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-18-13)

主催：日本学術会議社会学委員会社会統計調査アーカイブ分科会